



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

年間第14主日 C年 (2022年7月3日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書 66章10—14c節

第二朗読：ガラテヤの信徒への手紙 6章14—18節

福音朗読：ルカによる福音書 10章1—2、17—20節

平和

今日の第一朗読は『イザヤ書』の最後の場面です。そして、新しく生まれた神の民がエルサレムにて喜ぶことが記されています。10節にある「エルサレム」に注目しましょう。エルサレムには単なる地名を指す言葉を越えた象徴的な意味がこめられています。神がおられ、救いが実現している場所がエルサレムなのです。『ヨハネの黙示録』では、それを「新しい天と地」と呼び、「新しいエルサレム」が天から降りてくると表現しました(黙21章9-10節参照)。エルサレムには喜びと楽しみがあります。ですから、今日の朗読では「喜び」(「サーマハ」נשמח)と「楽しみ」(「ギール」גיל)という表現が使われます。

そして、エルサレムを通して与えられる祝福を11節では「乳房」と表現しています。「乳房」はヘブライ語で「シャド」(שד)だそうです。ある聖書の研究者たちは「シャド」は「全能」を意味する「シャツダイ」(שדאי)とも関連するかもしれないとします。乳房からの乳は赤ちゃんにとって生きていくために必要なものです。乳を通して赤ちゃんは母親と結ばれていきます。ヘブライ語で「全能の神」は「エル・シャツダイ」と言いますが、これは「乳房の神」ではないかという主張もあります。母が乳を与えることで喜びを感じるように、神さまも与えることを何よりも喜びとされる方だからです。乳房は豊かであり、だれもが飲んで飽き足るほどの祝福なのです。

今日の第二朗読は『ガラテヤの信徒への手紙』の最後の箇所からです。朗読の直前で「このとおり、わたしは今こんなに大きな字で、自分の手であなたがたに書いています」とあります(11節)。つまり、パウロが自分の手で書いているのです。「大きな字で」とあるので、パウロが目の病気でよく見えなかったと考える人、あるいはパウロはギリシア語がうまく書けなかったと考える人もいます。パウロは代筆をしてもらっていたのでしょうか？ パウロは、この『ガラテヤの信徒への手紙』の結びの部分は自分の手で書いています。「こんなに大きな字で」ですので、パウロはととても大切なことを伝えたいのだと思います。

13節で「割礼を受けている者たちは、自分自身では律法を守っていないのに、あなたがたの肉を誇るために、あなたがたに割礼を受けさせたいのです」(新改訳2017)とあります。目に見える割礼という儀式、目に見える律法を守るという規則だけで生きようとする人々をパウロは叱責します。そして今日の朗読箇所へと移ります。

17節の「焼き印」に注目してください。ここでの「焼き印」は複数形「スティグマタ」στίγματα が使われています。焼き印は奴隷につけられるしるしで、自分の所有であることを示します。しかし、「スティグマ」στίγμα と加算名詞が使われているところから、パウロがキリストの奴隷になったと考えるよりも、キリストのために受けた多くの苦難によって、たくさんの傷痕が刻まれていたと考えられると思います。主キリストによってたくさんの傷痕を受けて、パウロはキリストの証人となるのです。

福音朗読ではイエスさまの厳しい言葉が目につきます。これらの言葉を内容から分けて考えてみましょう。まず、使命をより完全に果たすための心がけに関する指示があります。七十二人がまずしなければならないのは働き手が与えられるように神さまに祈ることです。その神さまに信頼しているからこそ、財布も袋も履物も持っていったはなりませんし、使命を果たすために儀礼的な挨拶で時間を無駄にしてはなりません。派遣された目的は食べたり飲んだりするものではありませんから、よくしてくれる家を探して渡り歩いてはなりません。ただ出されたものを食べるべきなのです。

次に、七十二人の使命についての指示があります。すべて「言いなさい」という指示です。七十二人がすべきは平和と神の国を語るることなのです。病人を癒やすのも「神の国が近づいた」ことを言うためです。「この家に平和」と告げる。そして「神の国は近づいた」と宣言することがイエスさまから彼らに与えられた使命となります。

そうしますと、17節にある「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します」という帰ってきてからの七十二人の喜びようは、どこかイエスさまの意図から外れたところで喜んでいることに気づかされます。

説教：平和

岩波訳の聖書で今日の福音を読んでもみると、5節は「ある家に入ったら、まず言え、『この家に平安 [あれ]』』となっています。平和はギリシア語では「エイレネー」です。これはヘブライ語の「シャローム」の訳です。「シャローム」は完全、充足の意味があります。ですから、「シャローム」が意味するのは争いがないようにという意味だけではありません。神さまからいただくいのちが隅々にまで行きわたりますようにとの意味になります。つまり、これは祝福の言葉です。今日の福音で「御自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に使わされた」(1節)とありますから、七十二人は先遣者です。英語で言うところのヘラルド(herald)です。七十二人が「シャローム」、すなわち平和を告げて、その後で「シャローム」そのものである方がやって来るのです。こうして、イエスさまを迎えた家、人々は新しく創造されていきます。